

MK大型間知ブロック



01
新製品

02
擁壁

03
BOX

04
VS側溝

05
道路用
製品

06
柵

07
バイコン
製品

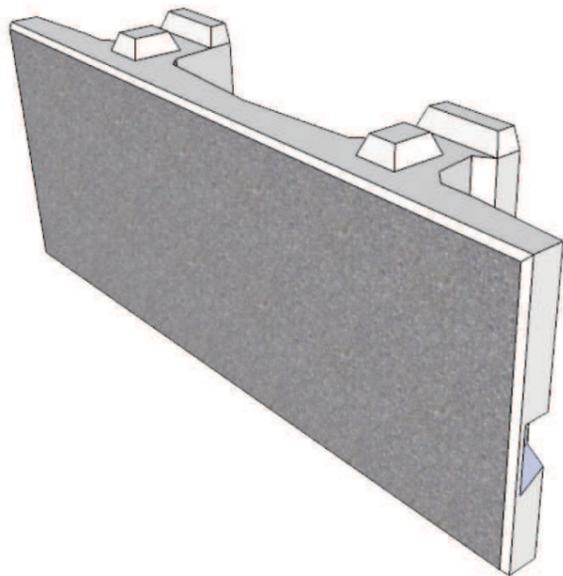
08
ブロック
製品

09
農業土木
・
水路製品

10
通信

11
その他

MK大型間知ブロック



宅地造成工事や道路で使用する練積み擁壁については、間知ブロックと呼ばれるコンクリートブロックを積み重ねて施工を行いますが、

- ① 1日当たりの施工面積が少ない
- ② 石積工の職人不足
- ③ コンクリートブロックの製造工場の減少

といった問題が挙げられます。これらの問題を解決するために、大型積みブロックのMK大型間知ブロックを開発しました。

表面の形状面積は $1.5\text{m}^2/\text{個}$ ($2\text{m} \times 0.75\text{m}$)、ブロック控長は 35cm (化粧部除く)、圧縮強度は $30\text{N}/\text{mm}^2$ 、製品重量は 602kg (1m^2 当り 400kg)となっています。また、胴込・裏込コンクリートによって一体となる形状となっています。

基礎についてもプレキャスト化を進めており、MK大型間知ブロックは、工期短縮およびコスト削減に寄与する製品です。



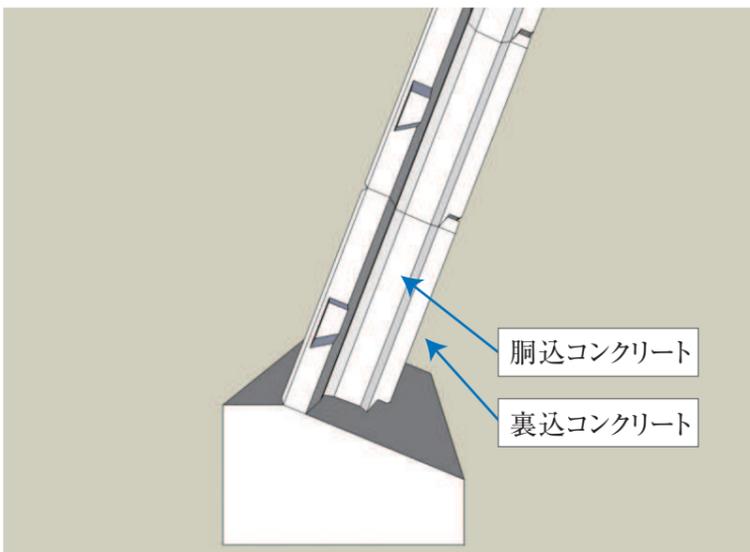
■ 1.5倍の形状面積

通常的大型積みブロックは $1\text{m}^2/\text{個}$ ($1.5\text{m} \times 0.666\text{m}$)ですが、MK大型間知ブロックは $1.5\text{m}^2/\text{個}$ と1.5倍の形状面積になっています。



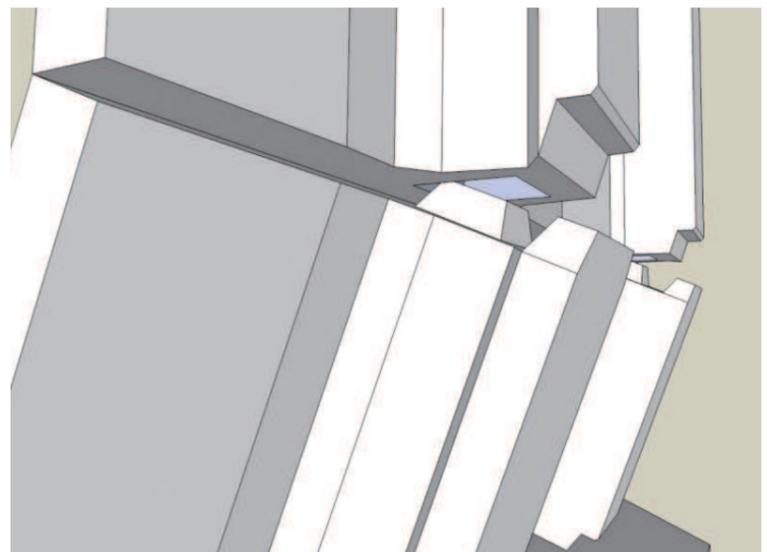
■ 表面模様

表面はハツリ模様となっており、落ち着いた風合いとなっています。



■ 一体化

間知ブロックと同様に、ブロックと胴込コンクリート、裏込コンクリートが一体化されるので、練積み擁壁として使用できます。また、胴込コンクリート量は 0.19m^3 (1m^2 当り)と間知ブロックと同じ量になっています。



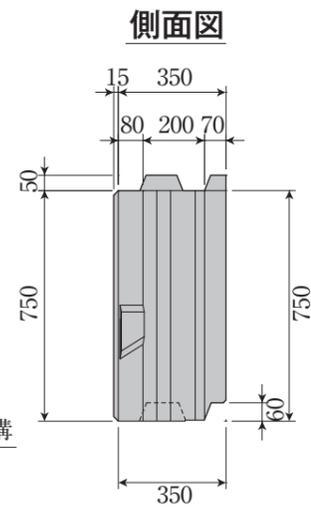
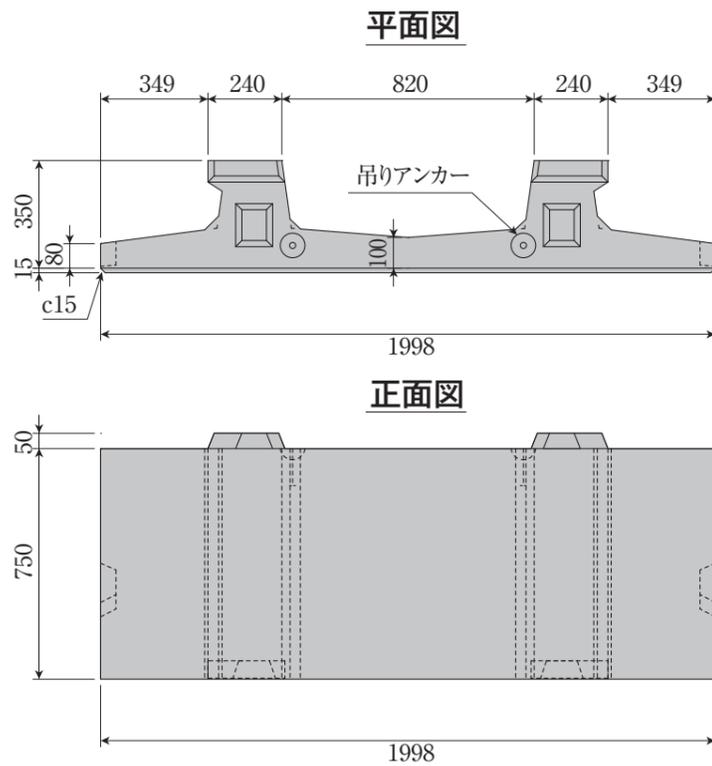
■ 連結部分

連結部分は、ブロックの滑動防止のために凹凸形状を採用しました。

MK大型間知ブロック

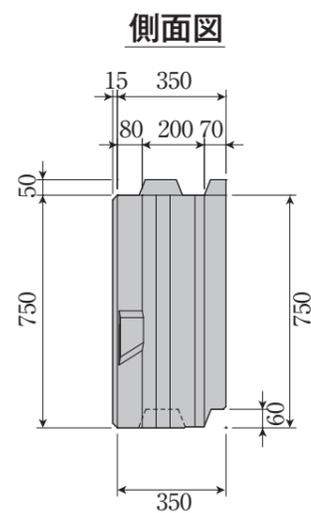
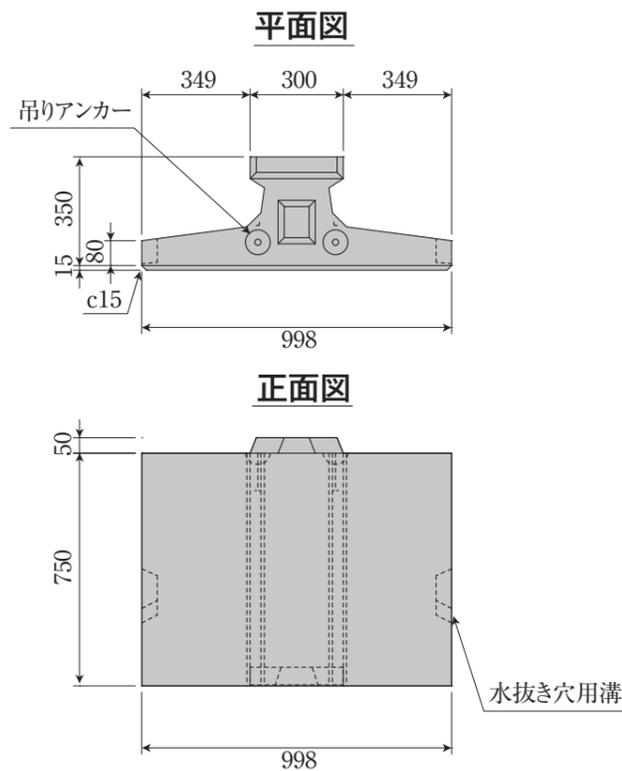
■350A

参考重量602kg



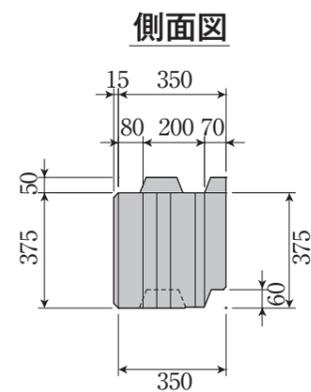
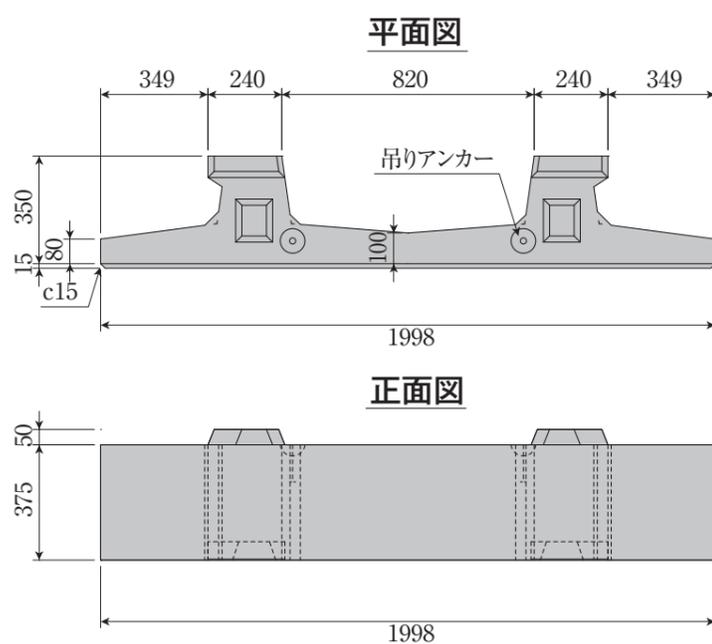
■350B

参考重量299kg



■350C

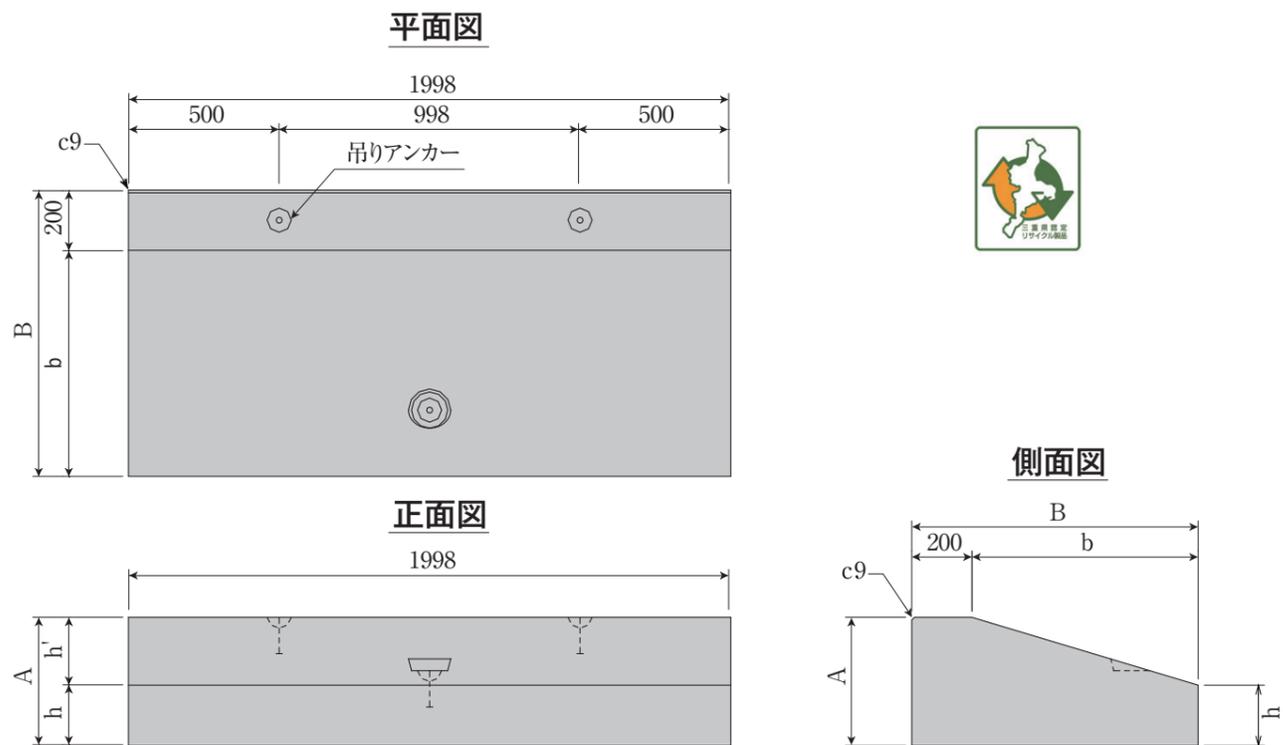
参考重量305kg



MK大型間知ブロック

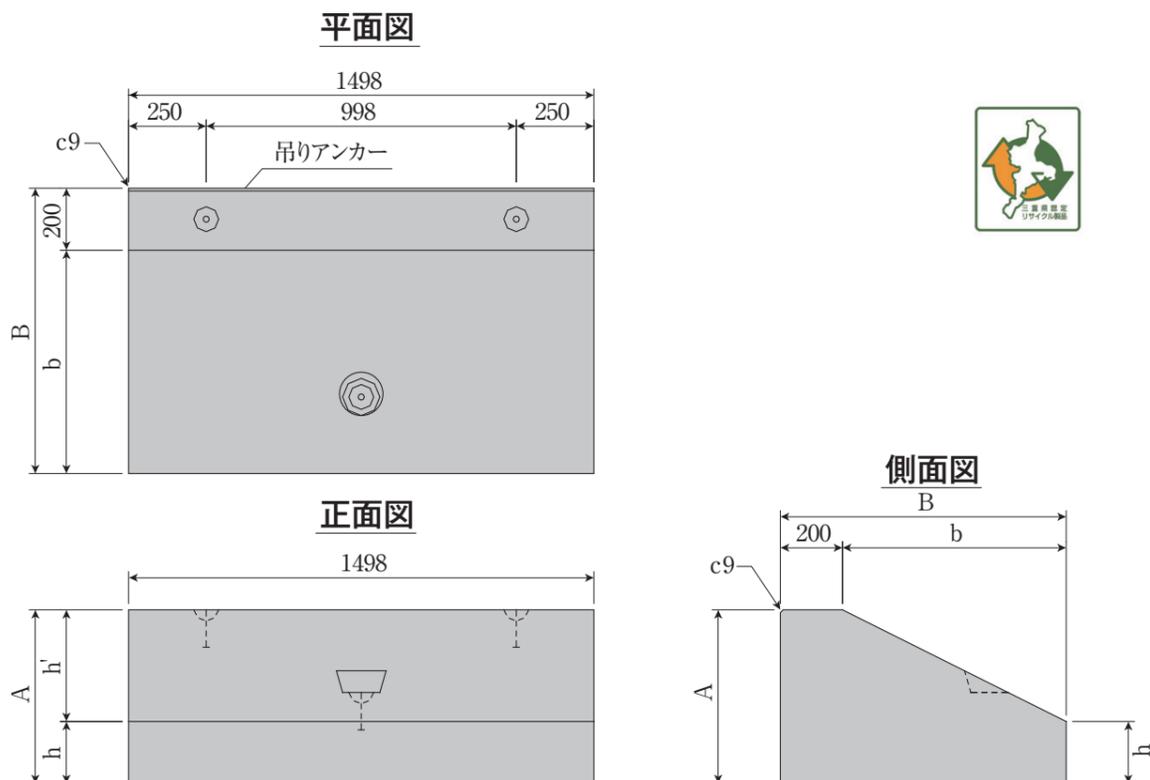
■MK基礎ブロック

- ・宅地造成工事や調整池で使用される標準断面図の現場打基礎をそのままプレキャスト化
- ・基礎コンクリートを打設する作業が不要になるので、大幅な**工期短縮**に！
- ・通常の間知ブロック用の基礎としても使用可能



呼び名	ブロックの見掛高Hの区分	A	B	b	h	h'	参考重量(kg)
3分用A	$H \leq 2\text{m}$	400	700	500	250	150	1118
3分用B	$2\text{m} < H \leq 3\text{m}$	425	950	750	200	225	1467

第2種土質(真砂土、関東ローム、硬質粘土その他これらに類するもの)に使用



呼び名	ブロックの見掛高Hの区分	A	B	b	h	h'	参考重量(kg)
5分用B	$H \leq 3\text{m}$	420	640	440	200	220	759
5分用D	$3\text{m} < H \leq 5\text{m}$	560	920	720	200	360	1332

第2種土質(真砂土、関東ローム、硬質粘土その他これらに類するもの)に使用

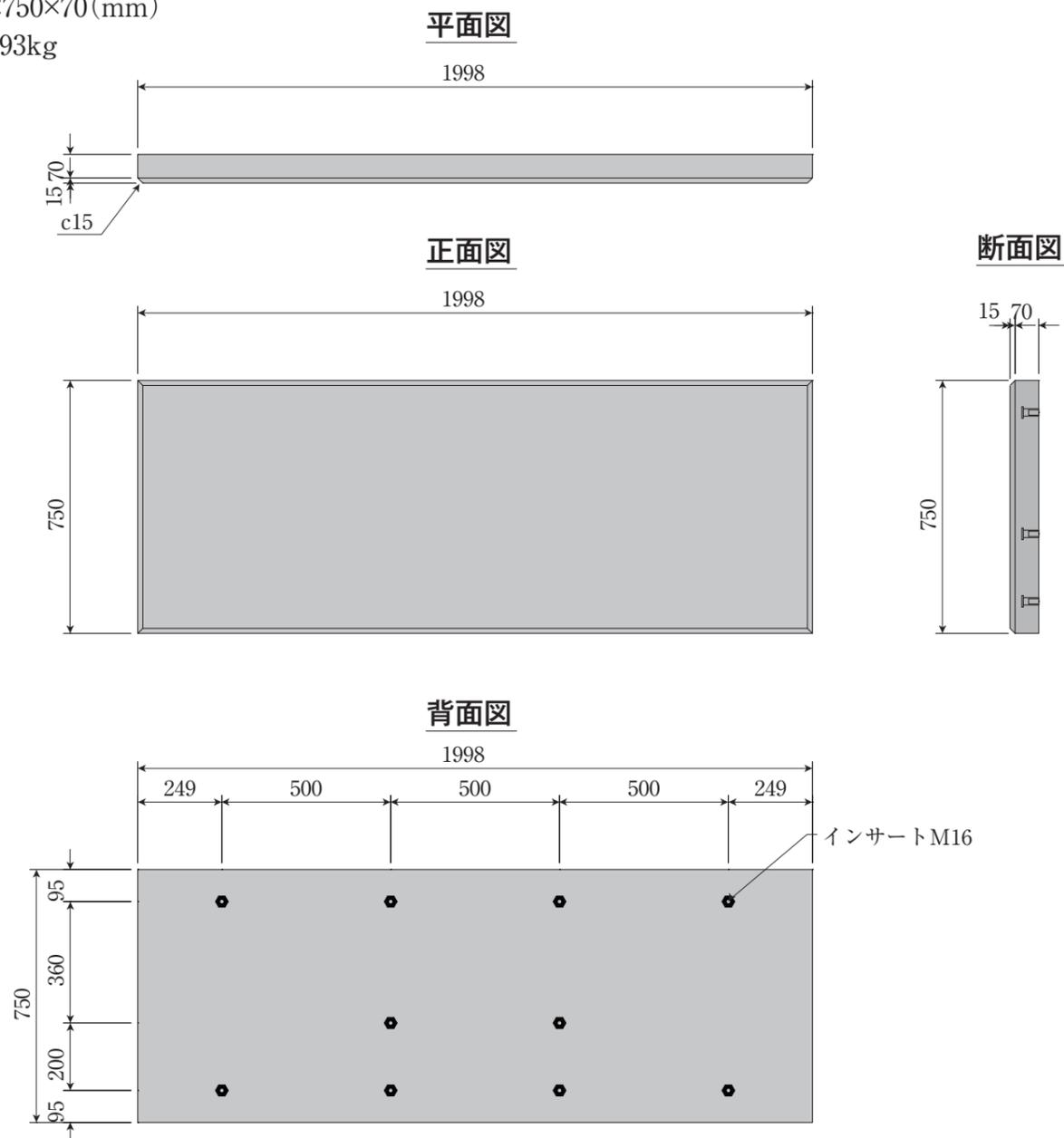
MK大型間知ブロック

■MKコンクリートパネル

- ・MK大型間知ブロックの現場打部分の**残存型枠**として使用できます
- ・短切り、斜切り等に対応可能(下図参考)
- ・インサート(M16)が10箇所付いており、連結金具による固定(製品の上下)が可能
- ・裏込コンクリート打設時には、付着強度を上げるためにアンカーボルトを必ず付けてください

寸法：2000×750×70(mm)

参考重量：293kg



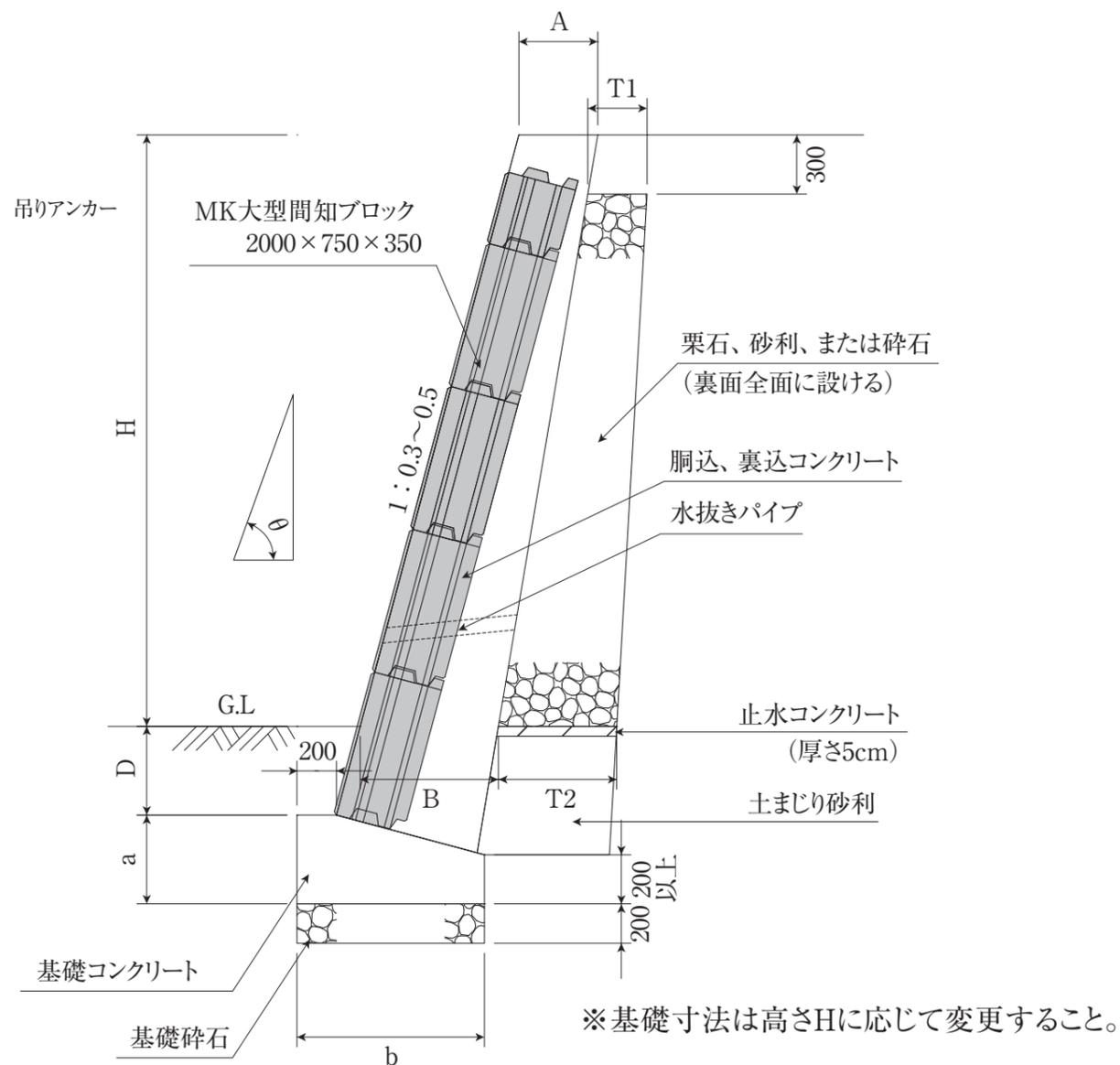
※短切り



※斜切り

MK大型間知ブロック

■標準施工断面図



■注意事項

- ・擁壁の勾配(θ)、高さ(H)、上端の厚さ(A)、下端の厚さ(B)、裏込礫厚さ(T1,T2)及び根入れ深さ(D)が、がけの土質に応じて宅地造成等規制法施行令第8条の基準に適合していることを確認してください。
- ・胴込、裏込コンクリートを用いて一体の擁壁とし、背面に栗石、割栗石、砂利また砕石(クラッシャーラン)で有効に裏込めをしてください。
- ・水抜穴に使用する材料は、内径75mm以上のコンクリートの圧力でつぶれないもの(VP管)とし、その配置は3mに1箇所割で可能な限り千鳥配置としてください。
- ・水抜穴の入口には、水抜穴から流出しない程度の大きさの砕石等(吸出し防止材を含む)を置き、砂利、砂、背面土が流出しないよう配慮してください。
- ・調整池に築造される擁壁の水抜穴については、逆流防止弁を設置してください。

■練積み擁壁高さに応じた必要地耐力(第2種土質想定)

呼び名	必要地耐力(kN/m ²)
H \leq 2m	75
2<H \leq 3m	75
3<H \leq 4m	100
4<H \leq 5m	125

- ・土質試験等により基礎設置地盤が必要地耐力を満足することを確認してください。
- ・必要地耐力を満足しない地盤の場合は、地盤の安定処理または置換によって築造した改良地盤に直接基礎を設けてください。